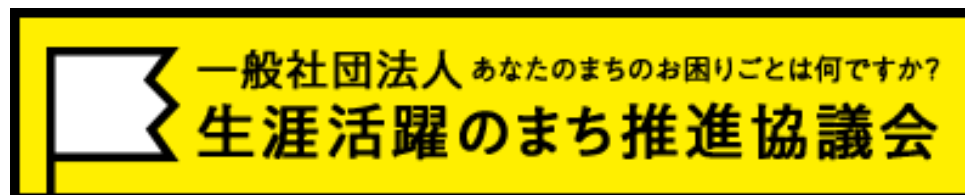


# 「生涯活躍のまちアドバイザー」 養成のための研修テキスト見直し等 に関する調査研究の報告

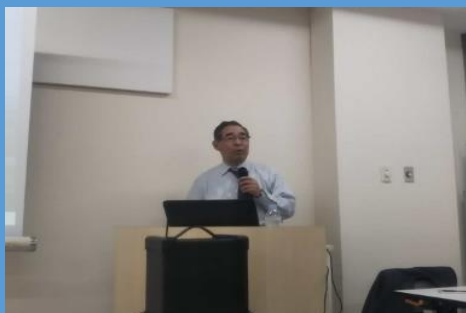
2020年3月23日（月）



# 「生涯活躍のまちアドバイザー」養成の実施目的等

## 目的

- 「生涯活躍のまち」のさらなる普及と推進に向けて、取組に着手した市町村のみならず、取組を検討中の市町村に対し、早期の段階から課題やニーズに応じた支援を行うため、「生涯活躍のまち推進アドバイザー」を養成するもの。
- また、研修を重ねる中で受講生のニーズ等を踏まえ、研修カリキュラムや研修テキストのブラッシュアップ等に繋げていく。



インプット：国による施策の説明、自治体等からの取組紹介

生涯活躍のまちに関する基礎知識（国、地方自治体、事業者、研究者等）



各種専門家（金融、医療福祉、まちづくり、大学等）



アウトプット：多業種間におけるグループワーク

### ① 【インプット：座学】

現在の地方創生をめぐる状況や「生涯活躍のまち」の理念・基本コンセプトの方向性、アドバイザーとして求められる役割等について理解する。

### ② 【アウトプット：グループワーク】

「生涯活躍のまち」に取り組んでいる事例等を参考に、グループワークを通して、ファシリテーション能力や課題解決能力を向上させることで、生涯活躍のまちづくりの実践としてアドバイザーとしての活動のイメージを掴む。

# 「生涯活躍のまちアドバイザー」養成研修内容

●一定の専門性を有する者を対象として、全国で4回・3日間の研修を実施。

## 研修の狙い

地方創生の現状や生涯活躍のまち構想の基本コンセプトの方向性及び具体的な取組事例等の基礎知識を習得することにより、アドバイザーに求められる人材像を理解する。

政策の方向性や取組事例等を参考に生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、テーマに沿って、まちの課題を抽出。グループワークを行うことで、ファシリテーション能力を向上させる。

3日間で学んだ政策の方向性やビジネスモデルの事例等を知識として習得し、「生涯活躍のまち（市・町・村）」の構想の骨子を作成することで、生涯活躍のまちづくりの実践の具体的なイメージを描く。

1日目	概要等
生涯活躍のまち	現在の地方創生に向けた取組状況や生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、目的やねらいなどについて理解し、アドバイザー人材に求められる基礎知識を習得し、構想づくりから実行計画にいたるプロセスについて学ぶ。
生涯活躍のまちのつくり方	生涯活躍のまち先進自治体の首長や先進モデルを運営する事業者より、地方経済の活性化、移住の流れ、関係人口・交流人口の拡大などの取り組みを通して、事業実現に向けての課題や目指している方向性を学ぶ。
地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち	事例をもとに、地域住民を巻き込んでいくプロセスから、アドバイザーとしての役割やファシリテーション手法を学ぶ。
事例で読み解く生涯活躍のまち	生涯活躍のまちのモデルを紹介し、様々な立場の登壇者の観点から生涯活躍のまちづくりのプロセスを検証する。
2日目	概要等
生涯活躍のまちで統合する政策課題とその対応	高齢者の活躍が期待される領域として医療・職業・住環境（い・しょく・じゅう）をテーマに政策の方向性等や事例を紹介する。
生涯活躍のまちの事例紹介	「住まい」「ケア」「活躍」「移住」「コミュニティ形成」の事例紹介、構想を推進していくための体制づくり、ビジネスモデルの事例等を学ぶ。
グループワーク①	各自治体・各人のこれまでのまちづくりを振り返りながら、課題についてさらに深掘りを行い、今までの取組事例等を参考に課題解決のための方策を考える。
3日目	概要等
グループワーク②	生涯活躍に向けてどのような取り組みが必要になるのかをグループワークを通じ、生涯活躍のまち構想の骨子を検討する。
グループワーク③	参加者は県職員や市町村職員、地域住民、事業者などの役割を想定しながら、骨子を作成する。
発表	構想の骨子を発表。それをいかに地域へ広げていくかの議論を行う。

## 結果

- 延べ参加者は**194**名、研修修了者は合計で**94**名
- 所属元も自治体をはじめ、金融機関等**数多くの業態**から参加
- 回を重ねるごとに**事業者の参加**が増加
- 生涯活躍のまちの新しい方向性の**理解が促進**
- **分野横断的**に取り組む必要性を共有
- 生涯活躍のまちの基礎知識をベースとして地域に入り、自分の専門性を発揮する**動き方を認識**



自治体	金融機関	医療・福祉	不動産	その他	計
31	22	17	6	18	94

## 意見

- 国からの説明や先行事例を通して、本事業の**理解を深める**ことができた。
- 関係者分析等キーパーソンを見つけ、**地域住民が自主的に動くようなコミュニケーションの手法等**が知りたい。
- 先行事例をそのまま展開することは難しいが、**自分の地域でも生かせるアイデア**があった。わがまちにあったやり方を考えていきたい。
- 失敗事例も学びたい（どのような困難に直面し、それをどう乗り越えたかのプロセス）。
- **様々な立場や異業種の方々とのディスカッション**を通して、自分とは違う視点からの発想が生まれ、**大変参考になった**。
- クリエイティブな思考を持った、プロジェクトを束ねる**プロデューサー的な人材**が必要になるのではないか。
- 今回の研修を受講しただけで終わってしまうことがないよう、**受講生同士の関係構築や、より実践に近い学びの機会**があればいい。



## 今後の方向性

受講生のニーズや有識者研究会における議論等を踏まえると、以下のポイントが重要であると考えられる。

### <ポイント>

#### ●アドバイザー研修の更なるブラッシュアップ

- 研修内容充実（交付金・補助金等の活用事例、事業が立ち上がるまでのプロセスの紹介、住民向けワークショップの手法等）
- 現場における実践的な学び（研修会場をすでに生涯活躍のまち事業に取り組んでいる地域において開催。同地域における課題解決のための構想づくり）

#### ●養成したアドバイザーへのフォローアップ

- 横連携（全国の生涯活躍のまちに係る情報発信、アドバイザー同士の情報共有のためのプラットフォーム）

#### ●養成したアドバイザーの情報発信

- 自治体とマッチング（自治体に向けたアドバイザーの所属、専門分野、活動エリアなどの情報提供）

#### ●プロデューサー的な人材の必要性

- 事業の統合管理者的存在の育成（左記の視点から現地で研修を実施）

## (参考) 実施概要

件名	第1回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2019年9月10日（火）～12日（木）
場所	パズル浅草橋（東京）
特徴	研修内容に対する評価は概ね高かったものの、参加者には自治体職員が多く、本来のアドバイザー候補となるべき民間事業者が少なかった。
受講者	受講者総数：51名（うち；自治体38名、事業者13名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：14名（うち；自治体9名、事業者5名）

件名	第2回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2019年10月23日（水）～25日（金）
場所	北海道自治労会館（札幌）
特徴	「生涯活躍のまち〇〇市」の構想作成にいたるプロセスにおけるアドバイザー、市町村職員、民間デベロッパー、地域住民などアクターの動きの説明を重視。金融機関を巻き込むことに成功。受講者は事業者が自治体を上回る。
受講者	受講者総数：52名（うち；自治体21名、事業者31名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：15名（うち；自治体1名、事業者14名）





## (参考) 実施概要

件名	第3回「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2019年12月9日（月）～11日（水）
場所	12月9日：あすいろ、12月10日～11日：うめきた会議室（大阪）
特徴	ワークでは事例分析に集中し、グループごとに考えるプロセスを重視。全体の受講者数は減ったものの、全日程受講者（修了証受領者）が全体の半数を上回る。
受講者	受講者総数：33名（うち；自治体18名、事業者15名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：20名（うち；自治体12名、事業者8名）

件名	第4回「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2020年2月10日（火）～12日（木）
場所	2月10日：神田カンファレンスルーム、2月11日～12日：TKP九段下神保町ビジネスセンター（東京）
特徴	実務面に対しては現場で何をどのようにやっていくかは、現場の資源や状況次第。アドバイザーは地域づくりから入って、専門性を発揮する。修了証受領者は最大。
受講者	受講者総数：58名（うち；自治体14名、事業者44名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：45名（うち；自治体12名、事業者33名）



# (参考) 生涯活躍のまちアドバイザー 研修カリキュラム

【第4回開催 日時：令和2年2月5日（水）13：00～7日（金）15：00 場所：東京都 神田カンファレンス・ルーム】

	内 容		内 容
10分	開会あいさつ・オリエンテーション		
50分	<b>基調説明 第2期総合戦略における「生涯活躍のまち」</b> 第1期総合戦略における地方創生をめぐる状況とその理念、第2期総合戦略に向け、新たな地方創生に向けた取組状況や関連施策のひとつである生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、目的やねらいなどについて理解し、アドバイザー人材に求められる基礎知識を学ぶ。 <説明> 内閣官房担当参事官 中野孝浩	120分	<b>講義 政策課題の整理と理解</b> 地方創生に関連する施策で、高齢者の活躍が期待される領域として医療・職業・住環境（い・しよく・じゅう）をテーマに政策の方向性、補助金や事業について生涯活躍のまちの観点から紹介。 ①テーマ（い）「活力ある超高齢社会を作るには」 ②テーマ（しよく）Society5.0 地方都市における次世代産業育成 ③テーマ（じゅう・まちづくり・地域連携・エリアマネジメント） <講師> 後藤 純（東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師）
60分	<b>講演「生涯活躍のまち」のつくり方</b> 生涯活躍のまちの取組を全国に先駆けてプロジェクトを推進してきたその経験から、事業実現に向けての課題や目指している方向性を学ぶ。 <講師> 速水健二（（福）佛子園 B's行善寺代表）	60分	<b>講義 事例紹介</b> 地域住民や高齢者の活躍が期待される領域として生涯学習をテーマに地域運営組織や公民館を活用した取組を紹介。 <講師> 荻野 亮吾（東京大学高齢社会総合研究機構 特任助教）
60分	<b>講演「地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち」</b> 住民参加型のプロジェクトに必要な仕掛けづくりやアイデアを豊富な事例をもとに紹介。地域住民をいかに巻き込んでいくプロセスから、アドバイザーとしての役割やファシリテーション手法を学ぶ。 <講師> 山崎 亮（studio-L 代表）	60分	<b>講義 事例紹介</b> 生涯活躍のまち推進マニュアルに提示している要素である「住まい」「ケア」「活躍」「移住」「コミュニティ形成」の事例の紹介、構想を推進していくための体制づくり、ビジネスモデルの事例等を学ぶ。 <講師> 堀田 直揮（青年海外協力協会 事務局長）
60分	<b>鼎談「推進アドバイザーに求められる姿勢とは」</b>  中野孝浩×速水健二×山崎亮×堀田直揮	180分	<b>講義・ワーク① ディスカッションテーマ「わが町を生涯活躍・人生100年時代の観点から点検する」</b> <ファシリテーター> 堀田 直揮（青年海外協力協会 事務局長）
		120分	<b>講義・ワーク② ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちに取り組む最初の一步を考える」</b> <ファシリテーター> 堀田 直揮（青年海外協力協会 事務局長）